



きゅうしょくだより



令和7年 桑折町学校給食センター（3月発行）

全国学校給食
週間

日本の学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町（現：鶴岡市）の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。

戦後、子どもたちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体「LARA（アジア救済公認団体）」から、給食用物資の寄贈を受けて、翌年1月から学校給食が再開されることになりました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、昭和25年度からは、冬季休業と重ならない1月24日～1月30日までを「全国学校給食週間」とすることが定められました。桑折町学校給食センターでは、この期間に地元農産物生産者と一緒に小学校を訪問し児童と一緒に給食を食べました。

1月28日

半田醸芳小学校 5・6年生



5年教室には、佐藤勉さん、6年生教室には、佐藤春雄さんが入って子どもたちと会食しました。今年は、夏の暑さで野菜の収穫量が減り、冬は雪が多くて収穫作業が大変だったと生産者さんは話をしていました。



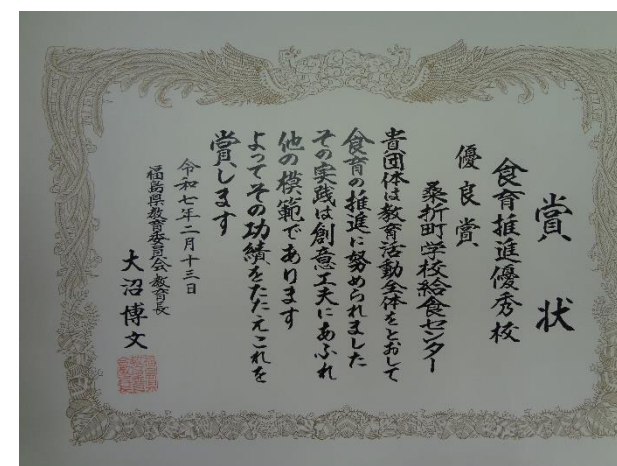
1月30日

伊達崎小学校 2・4年生

2年教室には、渋谷一男さんが、4年教室には、岡崎賢一さんが入って子どもたちと会食しました。子どもたちから、生産者の皆さんに感謝状が渡されました。



ふくしまっ子健康マネジメントプラン事業「食育推進優秀校表彰：優良賞」受賞



令和6年度、幼稚園、各小学校、中学校で取り組んだ食育についてまとめたものを応募して優良賞を頂きました。